

飯島紗代子様（ゆり薬局）

### 在宅業務の見学をさせていただいて

今回、在宅業務を実際に見学させていただいた事によってその印象はとても変わりました。自分の祖母の癌の闘病中や糖尿病悪化による片足切断後の病床の雰囲気はとても重く、その周りにいる家族も暗い状態でした。その為か、在宅業務の現場は怖いものを予想しておりましたが、見学させていただいたご家庭はたまたまなのかもしれませんが、患者様もご家族も穏やかでいらっしやっただけで驚きました。それは、もしかしたら自分の家で過ごしていることへの安堵感からかもしれませんが、自分が死ぬ時もこういう雰囲気の中で死ねたら幸せだな、と思いました。

また在宅支援業務の中で薬剤師として参加する場合、一体何ができるのだろうか考える課題も頂きました。一番肝になるのは、適したタイミングで必要な量の薬を確保し提供することだと思います。しかし、本音としてはもう一歩踏み込んだ事もしたいです。それが何なのかは模索中ですが、今自分が目指したいのは「服薬の正しい理解によるコンプライアンスの遵守」です。「何の為にその薬が出ているのか?」「正しい服薬タイミングを逃した場合、気づいたときに服用していいのか?」「処方されている薬は効果が強すぎそうで怖いから飲みたくない…（飲ませたくない…）」などの疑問・誤解に対し、患者様やそのご家族に納得・安心して服用していただけるよう説明すること。また、「アリセプトはアルツハイマー病の薬だとデイケアの友人から聞いたけど、自分はまともだから Dr.には言っていないけど飲まない（だから残薬が沢山ある）」等といった場合には、Dr.に進捗状況を報告し連携がとれるようになりたいな、と思いました。

最後に、在宅支援における主人公はあくまでも「患者様」であり、医療が全面に出すぎて患者様の意思の芽を摘む事がないように肝に銘じたいと思いました。

今回は、貴重な経験をさせて下さりまして本当にありがとうございました。

飯島緑様（ゆり薬局）

在宅業務の見学をさせていただいて

“在宅”とは…

見学させて頂いて、“百聞は一見にしかず”と申しますが、目からうろこが落ちました。Dr.、看護師、薬剤師、事務の各専門分野の先生方の見事な連携プレーで、患者様が、そのご家族の方がとても幸福そうに見えました。いかに、先生方に頼っておられるかが実地でよくわかりました。

薬剤師として薬の正しい配薬はもちろんのこと、QOL 向上の面で投薬後の患者様の体調変化に注意し、薬の効果・副作用・剤型の選択・保管法・医薬用品等のアドバイス・選択を行うことが大事であると感じました。そして、患者様と Dr.、看護師の先生方との間の橋渡しに少しでもなれるようにこれからも益々研鑽をつんで行かなくてはと気が引き締められました。

貴重な経験をさせて下さいました先生方に心から感謝致します。